



ぜひ、ご自身で調べてみてください。

III 我が国の若い世代の死因 第一位は「自殺」です

我が国は諸外国と比べ自殺者が多く、ピークの2003年には34,000人以上の方が自らの命を絶ちました。

近年では、2022年における総自殺者数が2万1,881人（暫定値）。

厚生労働省によると、日本の自殺者総数は世界第3位で、人口10万人あたりの自殺者数で比較すると世界第10位、主要国首脳会議(G8)の加盟国中ではロシアに次いで第2位となっています。

年齢別死因順位：2019年

年齢	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
総数	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎
0	先天奇形等	呼吸障害等	不慮の事故	乳幼児突然死	出血性障害等
1～4	先天奇形等	不慮の事故	悪性新生物	心疾患	インフルエンザ
5～9	悪性新生物	不慮の事故	先天奇形等	心疾患	インフルエンザ
10～14	悪性新生物	自殺	不慮の事故	先天奇形等	その他の新生物 心疾患
15～19	自殺	不慮の事故	悪性新生物	心疾患	先天奇形等
20～24	自殺	不慮の事故	悪性新生物	心疾患	先天奇形等
25～29	自殺	悪性新生物	不慮の事故	心疾患	脳血管疾患
30～34	自殺	悪性新生物	不慮の事故	心疾患	脳血管疾患
35～39	自殺	悪性新生物	心疾患	不慮の事故	脳血管疾患
40～44	悪性新生物	自殺	心疾患	脳血管疾患	不慮の事故
45～49	悪性新生物	自殺	心疾患	脳血管疾患	肝疾患
50～54	悪性新生物	心疾患	自殺	脳血管疾患	肝疾患
55～59	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	肝疾患
60～64	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肝疾患	自殺
65～69	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故
70～74	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故
75～79	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故
80～84	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
85～89	悪性新生物	心疾患	老衰	肺炎	脳血管疾患
90～94	心疾患	老衰	悪性新生物	肺炎	脳血管疾患
95～99	老衰	心疾患	肺炎	悪性新生物	脳血管疾患
100歳～	老衰	心疾患	肺炎	脳血管疾患	悪性新生物

厚生労働省政策統括官（統計・情報政策担当）『人口動態統計』による。

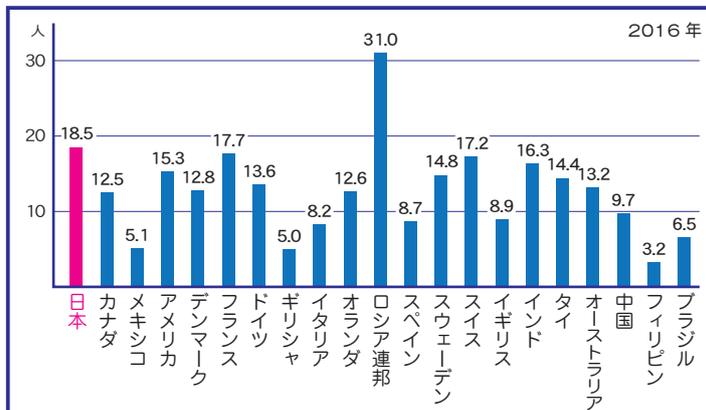
また、日本では若年層の自殺者が多く、小学生17人、中学生143人、高校生354人の合計514人にも上っています。さらに、30代までの死因の第一位が「自殺」となっています。

このように若者の死因の第1位が自殺であるのは日本のみであり、異常な事態と言えます。学生の自殺者が多い理由は、いじめや人間関係によるものと推測されます。

国立精神・神経医療研究センター・薬物依存研究部長の松本俊彦先生によると、「思春期に入ると子どもたちは急速に親に秘密を作るので、自殺が起きてから周りが騒然とするけれども、本当のところ何があったか分からない場合が多い」とのこと。また、「子どもたちは大人に比べると、比較的ささいなストレスで死を考える。なぜなら、子どもたちは人生のさまざまな選択肢を知らないから。小学4年生くらいまでは家庭、高校1年生くらいまでは学校が世界の全てで、そこで行き詰まると、世界が終わった感じがしてしまう」と。

SOSの出せない子どもたちの悩みにいち早く気づけるのは、周囲の子どもたち。松本俊彦先生のような専門家のアドバイスや指導を受け、悩みが解決できる道があることを示し、異変を感じたら行動できるように準備しておく必要があります。

主要国別自殺者数（人口1000人あたり）



WHOのサイトからデータを抽出して作成

自殺者数の年次推移

警察庁自殺統計原票データより作成

